

平成27年度八王子市立小学校使用教科用図書調査研究報告書（選定資料作成委員会）

種目 国語（1/1 枚目）

調査の観点	発行者名 東京書籍	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書出版
<p>1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)児童の発達段階に対する配慮されているか。 (3)各学年にわたる内容の取扱いに対して配慮しているか。 (4)児童の意欲、関心を引き出す配慮があるか。 (5)児童の習熟の程度に応じた発展的な学習内容の取扱いが適切であるか。</p>	<p>(1)配慮されている。 ・身に付けさせたい力が明確に示されている。 (2)各学年に応じて興味のもてる構成になっている。 (3)各領域の系統性を意識した配列になっている。 ・読書活動との関連は充実している。 (4)身近な題材や興味をひく題材が集められ、児童の意欲や興味・関心を引き出す配慮がされている。 (5)発展的内容が明確に示され、習熟の程度に配慮している。</p>	<p>(1)単元ごとに身に付けさせたい力が明確に示されている。 (2)入門期の学習に工夫があり、楽しく学習できる作りになっている。 ・発達段階に配慮し、各学年に応じて興味・関心のもてる構成になっている。 (3)他教科や総合的な学習の内容を踏まえた題材を設定している。 (4)説明文で、身近な題材が多い。 (5)習熟の程度に応じた学習にも配慮されている。</p>	<p>(1)配慮されている。 単元ごとに身に付けさせたい力が明確に示されている。 (2)1学年で、ひらがなが「あ」から始まる構成になっている。 (3)各領域の系統性やバランスに配慮された構成になっている。 (4)児童の発達段階に応じた内容が取り上げられ、意欲を引き出す配慮がされている。 (5)児童の習熟度に配慮され、発展的内容も取り上げられている。</p>	<p>(1)めあてが明確だが、身に付けさせたい力の示し方を図示化するなどはされていない。 (2)入門期のイラストが動物で、ひらがなの指導順が簡単なものからになっている。 (3)各領域「話す・聞く、書く、読む」に配慮されている。 (4)他教科との関連性をもった題材が学年ごとにあり、児童の身近なものなので興味・関心を高めよう配慮されている。 (5)巻末の付録が減った分、発展的な学習が少なくなった。</p>	<p>(1)各学年のめあてが明確に示されている。領域別教材と身に付けさせたい力を見開きで確認できるようにしている。 (2)入門期の指導(イラスト、鉛筆、姿勢、ひらがな)に工夫がされている。 (3)物語教材が充実している。 ・各学年夏休み前に「本は友達」の単元設定をしている。 (4)目次・手引きで学習の流れが一目で分かる。 ・児童の活動が多く設定されていて、興味・関心をもって主体的に活動できるように構成されている。 (5)発展教材が豊富である。</p>
<p>2 構成及び分量 (1)内容は全体として系統的・発展的に構成されているか。 (2)各領域の分量について児童の発達段階を十分に配慮しているか。 (3)教科の特質に即した主要教材において基礎的事項をおさえ、補充教材並びに発展教材等の取扱いに対して配慮しているか。</p>	<p>(1)概ね系統的・発展的に構成されているが、「話す・聞く」領域の教材が出てくる時期が他社に比べて後ろに配置されている。 (2)配慮されている。 (3)配慮されている。 ・多くの本と出会うことができるように様々なジャンルの本を紹介している。 ・巻末の「言葉のまとめ」「学習で使う言葉」で振り返りやまとめができるように構成されている。 ・生活科や理科の観察カードの書き方が紹介されている。 ・「ノートの使い方」のページが工夫されている。 ・巻末のまとめを生かして発展学習に取り組むことができる。</p>	<p>(1)系統的・発展的に構成されている。 (2)配慮されている。 (3)配慮されている。 ・「授業で使う言葉」「国語のカギ」など、語句のまとめが充実している。 ・説明文・物語文とも巻末の補充教材が充実している。 ・「読むこと」の学習において、本教材に入る前に基礎を学習できる教材が組み込まれている。 ・ノートの書き方の例が示されている。</p>	<p>(1)系統的・発展的に構成されている。 (2)配慮されているが、読み深められる物語文が少ない。 (3)補助教材は資料集として活用することができる。 ・漢字単独の小単元があり、ドリル形式になっている。</p>	<p>(1)系統的・発展的に構成されている。 (2)配慮されているが、読む領域の教材の少なさに加え、「ことばのとびら」での読み物資料が減少している。 (3)「学習の手びき」「言葉を増やそう」に語彙数を増やすことができるような工夫がされている。 ・巻末折込で図書紹介があるが、補助教材が少ない。</p>	<p>(1)系統的・発展的に構成されている。 ・全学年、全教材において「話す・聞く」「書く」の言語活動教材には、学習活動の流れが示されている。 (2)概ね配慮されている。教材の分量が多く、読み物の資料が充実している。 (3)発展教材が充実している。 ・巻末「言葉の宝箱」は語彙を増やすきっかけとすることができる。 ・手引きの最後には「ふりかえろう」の設定がなされており、児童自身の言葉による学習活動の振り返りができるよう配慮されている。</p>
<p>3 表記及び表現 (1)児童にとって読みやすい表現であるか。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。</p>	<p>(1)文字の大きさ・太さが学年に応じて適切である。 ・高学年は行間が狭い。 ・「読むこと」の領域のみに、単元の扉のページが設定されているが、「話す聞く」「書くこと」の領域の範囲は明確ではない。 (2)写真、図、図解が多く、読解の手助けとなっている。</p>	<p>(1)文字の大きさ・濃さが学年に応じて適切である。 ・模範例の字が小さい個所がある。 (2)写真や絵・図・表が多く、支援の必要な児童への配慮がなされている。 ・一部(脳)を除き、鮮やかな色であり、イラストは学習の手助けとなるよう配慮されている。</p>	<p>(1)字の大きさ・太さが学年に応じて適切である。 ・別冊は本教材とのつながりが分かりにくい。 (2)余白が広く、すっきりとした配置である。 ・別冊の絵や写真が光を反射する。</p>	<p>(1)文字の大きさや行間等が学年に応じて適切である。 ・行間が広めで、書き込みしやすい。 (2)物語文の挿絵が以前から使われているもので馴染みやすい。 ・写真、イラスト、図形等がおおむね見やすく、工夫されている。</p>	<p>(1)文字の大きさや行間等が学年に応じて適切である。 ・活動の流れが、矢印を使ってまとめられている。 (2)説明的文章において、様々な種類の写真、イラスト、図形等が使われており、読解の手助けとなっている。</p>
<p>4 使用上の便宜 (1)全体の構成が見通せるように配慮しているか。 (2)課題発見、課題解決に向けた学習が効果的に進められるように配慮しているか。 (3)印刷・装丁に対して配慮しているか。 (4)地域性に対して配慮しているか。</p>	<p>(1)1年生上巻以外は巻頭に目次があり、領域も示されている。 ・巻頭に各領域別に学習する内容が折込・見開きのページで示され、一年間の学習を見通すことができる。 (2)巻頭で学習の進め方が示されており、課題発見や解決に向けた学習が配慮されている。 (3)5～6年生は年間1冊であり、中1ギャップに対応している。 ・カラーユニバーサルデザインの配慮がある。 (4)「多摩川の江戸アユ」(5年)、「東京のちひろ美術館」(5年)が紹介されている。</p>	<p>(1)1年生上巻以外は巻頭に目次があり、領域も示されている。 (2)「学習のびき」「ふりかえり」などの言語活動が示されている。 (3)全学年が上下巻2冊の分冊構成になっている。 ・カラーユニバーサルデザインの配慮がある。 (4)東京スカイツリー(5年上)が取り上げられている。</p>	<p>(1)1年生上巻以外は巻頭に目次があり、領域も示されている。 ・目次の後に領域ごとに学習内容がまとめられ、評価するページが設けられている。 (2)めあてが簡潔にまとめられているが、各領域にまたがる言語活動の学習は示されていない。 (3)2～6年生は年間1冊にして、高学年は中1ギャップに対応している。 ・カラーユニバーサルデザインの配慮がある。 (4)地域性に対する配慮は特に見られない。</p>	<p>(1)1年生上巻以外は巻頭に目次があり、領域も示されている。 ・単元構成が学年間の関連について示されている。 (2)学習の流れについて具体例を示して明確である。 (3)全学年が上下巻2冊の分冊構成になっている。 ・カラーユニバーサルデザインの配慮がある。 (4)地域性に対する配慮は特に見られない。</p>	<p>(1)1年生上巻以外は巻頭に目次があり、領域も示されている。 ・目次の次に各領域ごとの学習内容が示されている。また、領域別の留意点も示されている。 (2)領域ごとの学習方法や単元ごとの学習の進め方が示されている。 (3)5・6年生は年間1冊にして中1ギャップに対応している。 ・カラーユニバーサルデザインの配慮がある。 (4)地域性に対する配慮は特に見られない。</p>
<p>5 総合所見 (1)教科の指導及び児童の学習活動の視点から総合的にみてどうか。 (2)現在八王子市で使用している教科用図書と比べてどうか。</p>	<p>(1)「言葉の力」を中心とした基礎的・基本的な内容が系統的に構成されてある。また、比較的読みやすい教材が多い。 (2)全体的に読みやすい。イラスト・レイアウトがシンプルである。 ・付録が充実している。</p>	<p>(1)「話す・聞く」領域の内容が児童の生活と身近なものになっている。 ・活動の手順やねらいが明確で、取り組みやすい。 ・読解力を意識した物語・説明的文章が充実している。 ・「話す・聞く」「書く」領域の教材に工夫が見られる。 (2)物語文、説明文共に充実しており、児童の興味・関心を引く内容である。 ・単元ごとのねらいが明確で、目的意識をもって取り組むことができる。</p>	<p>(1)補助教材が充実している。 ・中～高学年では、以前から教材としてきた文章が少ない。 ・他教科につながる言語活動が掲載されているが、具体的な例示が少ない。 (2)別冊「学びをひろげる」が充実していて、他教科の言語活動に結び付けることができる。</p>	<p>(1)各領域にまたがる言語活動が充実している。 ・「書く」領域で取り扱っている内容に変更がない。 ・読解教材が少なくなっている。 (2)入門期の教材に改善がみられる。 ・単元の構成が児童の実生活に即した配列になっている。 ・漢字索引を巻末に配置している。</p>	<p>(1)物語文・説明的文章などの「読む」領域の教材が充実している。 ・各領域の学習内容、学習の流れ、学習の視点が明確化されており、児童にとっても見通しをもった学習ができる配慮がなされている。 (2)物語文、説明文共に児童の興味・関心を引く内容である。 ・主張を問う課題が設定されており、自分の考えをもつ習慣を身に付けさせ、思考力・判断力・表現力を育成する視点から工夫されている。</p>